

『『福島県教育センターの取組 4F-Trial』について』

研究・研修部長 藤東 喜史

令和3年に中央教育審議会に取りまとめられた『『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）』等、教職員の研修にまつわる一連の動向を踏まえ、福島県教育センター（以下「教育センター」という。）としても県教育委員会の計画に沿いながら、Plantの導入など新たな研修体制の構築に向けて様々な試みを進めています。特に今年度は「私たちは、質の高い研修を提供し、県内の教職員の学びたい気持ちを支えます。」というスローガンのもと、「教育センターの取組 4F-Trial」として「新たな教職員の学び」の姿の実現に向けて積極的に取り組んできました。4F-Trialとは、From Fukushima prefectural education center For the Future に出てくる4つアルファベットFのことです。まずは、教育センター指導主事等の研修デザインに関する学び直しなどから取り掛かりました。いくつかの取組を紹介したいと思います。

一つ目は、東京学芸大学のプロジェクトと所内教員研修チームの研修づくりに関する共創です。今年度3回のワークショップを計画し、2回のオンライン勉強会を経た最終回の令和6年12月には、大学からプロジェクトリーダーの先生をお迎えして、対面式でのワークショップを行いました。所内から約40名が参加し、研修づくりについての認識を深める機会となりました。

二つ目は、『『研修観の転換』に向けたCLUE』という参考資料の所内共有です。これは、NITS（独立行政法人教職員支援機構）からの提案や、研修づくりに関する知見をよりどころとして、指導主事等が主体的に「研修観の転換」を図ろうとするときの一手掛かりとなるよう、所内総合企画チームのメンバーを中心とする「新たな教職員の学び」推進委員会が作成したものです。また、「研修デザインCLUEシート」というものも考案し、指導主事等による新たな視点からの実践的な研修づくりの推進を図りました。

三つ目は、『『新たな指導主事の学び』一石二鳥プロジェクト』というものです。所内の各チームの特性を生かして自発的に行ってきた従来の勉強会を、単に知識やスキルを教え合うだけではなく、研修参加者の目線になりながら、内容とともに研修デザインの視点でも協働的に学んでいこうという取組です。「指導主事の学びも教職員の学びと相似形」と考え、組織内での「学び合いのコミュニティ」の形成にもなりました。具体的には「教育相談チーム×教員研修チームコラボ Initiatives～学びの変革の実現に向けて～」と題し、指導主事が運営する教科研修に親和的な集団づくりの視点を取り入れる土壌の醸成を目的とした企画がありました。対話を通して課題のニーズを把握し、企画内容の必要性と参加意欲を喚起するなど、今までにはなかった研修デザインに挑戦しました。

四つ目は、「学びの変革応援事業」等における学校を舞台としたフィールドトライアルです。所内情報教育チームや教育相談チームにおいては、「教育の情報化」や「学びの土台となる親和的な集団づくり」についての対象校への支援の中で、「新たな教職員の学び」に向けた研修づくりを試行してきました。また、所内調査研究チームにおいては、『『学びの変革』ガイド』の作成と活用案内を通して、教師の「理論と実践の往還」を促す工夫をしたり、長期研究員の研究・実践の支援と成果の発信を通して、「探究心を持ちつつ自律的に学ぶ」姿を発信したりするという役割も果たせました。所内研修支援チームは専門的なバックグラウンドを勉強しながら、教師の「個別最適な学び」に関わる研修に取り組んでいます。

今後は研修におけるイントロダクションやリフレクションなどにも重点をおき、参加者を主語にした質の高い研修の提供に努めてまいります。福島県の子どものための「学びの変革」の実現に向けて、ともに「新たな教職員の学び」をつくってまいります。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター
TEL 024-553-3141（代表）
URL <https://center.fcs.ed.jp/>

〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地

E-mail center@fcs.ed.jp

教育の情報化の推進に向けた教員研修の在り方 — 端末活用中核教員の育成を通して —

1 どんなことに取り組んだの？

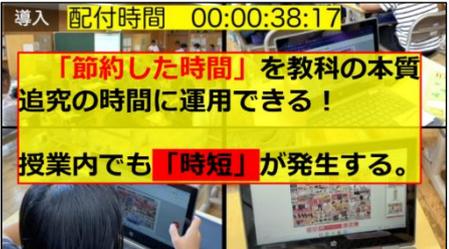
教育の情報化の推進のために、研究協力校において、端末活用中核教員や端末活用推進教員を育成し、ペーパレス職員会議や教員（校内）研修を計画・実施することで、1人1台端末を活用した校務の遂行や授業の実施へとつなげ、教員のICT活用指導力の向上を図りました。この結果、クラウドの利便性を実感した教員が日常的に活用するようになったことで、児童生徒の情報活用能力の育成につながりました。

2 成果 ※研究協力校の授業の実際より

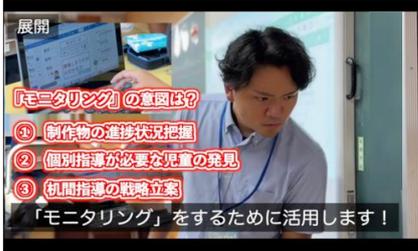
○ 1人1台端末を活用した授業展開
クラウドを活用し、児童がいつでも「他者参照」を行いながら思考を深めることができるような環境を整えたことで、児童一人一人が学び方（調べ方・学習形態・まとめ方等）を決める授業展開が可能となった。導入で課題を確認した後、「調べる」「まとめる」「発表する」「振り返る」といった流れで授業を展開していった。



○ URL共有による資料配付やチャット機能活用
約30名の児童に対し、4種類の資料をURLの共有によって配付（即時共有）したことにより、時間を大幅に節約することができた。また、「考えが滞った児童へのヒント」という視点から、調べた内容をチャットへ投稿して共有するように促したことで、児童同士の情報共有が進み、課題のレポート作成が加速されていた。



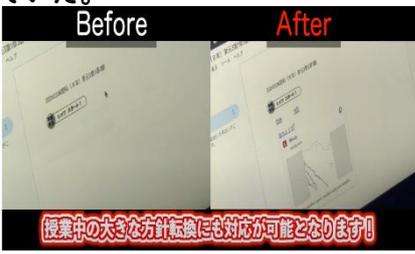
○ モニタリング
ICTを活用しない授業では、一人の教員が見ることができる児童の人数は限られていたが、先生機でモニタリングすることで、すべての児童の進捗状況を瞬時に把握でき、考えが滞っている児童への個別の支援や適切なタイミングでのフィードバックなど、机間指導を効果的に行うことができていた。



○ 思考の可視化と他者参照
ノートを写真撮影することで思考を「可視化」し、クラウド上で「即時共有」できる環境にしていた。このことにより、教師の指示がなくても児童自身が必要に応じて「他者参照」を行い、考えの比較や思考の修正を行ったり、考えが滞ったときのヒントにしたりする姿が見られた。



○ デジタルワークシートの活用
Googleドキュメントで作成したワークシートを白紙共有（Before）し、教師がリアルタイムに授業の流れを修正・改善したり、必要に応じて資料やWebサイト、解説動画等のURLを添付したりする（After）ことで、生徒の多様な学び方に応じて授業を展開していた。



○ 個別最適な学び
デジタルワークシートの共有など各自で学習できる環境を整え、「どのように学ぶか」を生徒自ら意思決定する機会を与えていた。これにより、個人で課題に取り組む生徒、「他者参照」する生徒、ペアになって課題に取り組む生徒、対話と協働で課題に取り組む生徒など、さまざまな姿が見られた。



令和7年度 情報教育系専門講座

GIGAスクール構想により、本県でも1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的な環境整備が行われ、校務や授業において1人1台端末やクラウド環境の活用がより一層求められています。1人1台端末の活用の推進に向け、私たち教職員に求められる資質の向上を図るため、以下の専門講座を設けています。先生方の受講をお待ちしております。

校務処理に役立つ表計算活用講座

実施日：令和7年9月29日(月)

- ◇1日の講座です。
- ◇校務処理における表計算の様々な機能についての実践的な研修を行い、その技術と指導力を高めます。
- ◇内容
 - ・関数とグラフの活用法
 - ・クロス集計の活用法



授業力向上のための ICT 活用実践講座（義務系）

実施日：令和7年11月4日(火)

- ◇1日の講座です。
- ◇Google Workspace for Education の共有方法を習得し、クラウドのメリット（即時共有、他者参照、共同編集）を活用した授業構想をすることを通して、校内で1人1台端末の活用を推進できる技術と指導力を高めます。
- ◇内容
 - ・教育の情報化の概要と動向
 - ・クラウドでつながる
～Google Workspace の共有術～
 - ・1人1台端末の活用事例と活用のポイント
 - ・授業設計ワークショップ

授業力向上のための ICT 活用実践講座（県立系）

実施日：令和7年10月16日(木)

- ◇1日の講座です。
- ◇Google Workspace for Education の共有方法を習得し、クラウドのメリット（即時共有、他者参照、共同編集）を活用した授業構想をすることを通して、校内でICTの活用を推進できる技術と指導力を高めます。
- ◇内容
 - ・教育の情報化の概要と動向
 - ・クラウドでつながる
～Google Workspace の共有術～
 - ・1人1台端末の活用事例と活用のポイント
 - ・授業設計ワークショップ

グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座

実施日：令和7年7月23日(水)

- ◇1日の講座です。
- ◇グループウェアとしての Google Workspace for Education の活用法を学び、校務で活用するための知識と技術を高めます。
- ◇内容
 - ・グループウェアの概要
 - ・クラウドでつながる！
Google Workspace 演習
 - ・授業を意識した共有サイトの構築



責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座

実施日：令和7年7月16日(水)

- ◇1日の講座です。
- ◇情報化社会が進展する中で、データから子どもたちの現状を理解し、子どもたちに情報モラルや情報リテラシーを身に付けさせるための、新たな情報モラル教育の指導力向上を図ります。
- ◇内容
 - ・データから見る現代の子どもたち
 - ・子どもの自律を促す情報モラル
 - ・現場で実践できる情報モラル教育のデザイン



基礎から学ぶクラウドサービス入門講座（自主講座）

実施日：令和7年6月14日(土)

令和7年9月20日(土)

- ◇初心者を対象とした自主講座です。
- ◇どちらか1日を選択
- ◇GCS メール (Google Workspace) の操作からクラウドを用いたデータの共有方法を身に付けます。
- ◇内容
 - ・メールとチャットによる情報伝達
 - ・カレンダーによるスケジュール管理
 - ・ドライブ（ドキュメント、スプレッドシート、スライド、フォーム）の活用と共有



「SOSサイン」 の共有

Q-Uには、右のような生徒の「SOSサイン」を把握するための質問項目があります。全ての生徒の回答をGoogleスプレッドシートに入力したことで、支援が必要な生徒を校内で共有することができました。

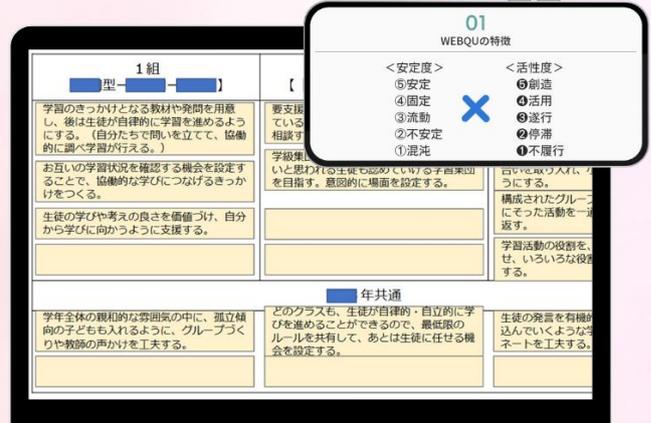
生徒回答:5ともそう思う、4少しそう思う をスプレッドシートに入力

番号	質問項目	想定
11	クラスの人から無視されるようなことがある。	いじめ
12	クラスや部活動でからかわれたり、ばかにされたりするようことがある。	いじめ
13	授業中に発言をしたり先生の質問に答えたりするとき、冷やかされるようことがある。	いじめ
14	クラスメートから耐えられない悪ふざけをされるようことがある。	いじめ
15	クラスで班をつくる時など、なかなか班に入らず、残ってしまうことがある。	
16	クラスの中で浮いていると感じることがある。	
17	休み時間などに、ひとりでいることが多い。	
18	クラスにいるときや部活動をしているとき、まわりの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。	
19	学校に行きたくないときがある。	不登校
20	私はクラスメートの友人関係についてあまり知らない。	
21	友人からネット上で、何度も悪口を書かれたり、いやなことをされたりする。	SNSいじめ

WEBQU※を活用した 校内研修

2学期にWEBQU実施後、次のような研修を支援しました。

- WEBQUの基本的な見方を知り、結果から学級の傾向をとらえる。
- 学級の傾向に合わせた手立てについて、学年ごとに協議しながら、Googleスライドに入力する。
- 各学級の気になる生徒とその支援策を共有する。



※児童生徒がアンケートにweb上で回答し、アンケートの結果から教員が児童生徒の状態を多角的に知ることができるアセスメントツール

先生方から寄せられた声

4月の年度当初に行った、授業の中で「認める」場面を考える研修が親和的な集団づくりの視点となりました。

Q-Uを利用した学級への働きかけや生徒への声かけの工夫を協議できたことが、実践につながりました。

校内研修によって、教員間で生徒の「認め合う」姿を意識するようになりました。

校内研修で協議した内容で、互いに認め合うとはどういうことかを生徒に考えさせる場面を設定しました。

先生方の日ごろの実践を共有する機会となりました。

校内研修で、Q-Uの結果の読み取り方の研修内容がとてもためになりました。

本資料は、令和6年度の福島県教育センター教育相談チームの研究「チームで取り組む親和的な集団づくり」を基に作成しています。

詳細については、「研究紀要」をお読みください。



専門研修【放射線・防災教育指導力向上講座】 令和6年8月2日(金) コミュタン福島にて

今回で3年目となる福島県環境創造センター交流棟コミュタン福島での講座には、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方が33名参加され、放射線・防災教育の指導力向上を目指しました。

1 研修概要

【講義・演習】放射線教育の充実に向けて

コミュタン福島の職員による、放射線問題や放射線教育についての講義の後、霧箱を使って放射線を可視化する実験や、放射線を遮へいする実験を行いました。目に見えない放射線の世界を感じ取る貴重な時間となりました。

【施設見学】

先生方は施設内の展示や資料に触れながら、それぞれの視点で放射線についての理解を深め、学びを広げている様子でした。

【講義】県主催のそなえるふくしま防災出前講座について

福島県危機管理課の職員による避難行動についての講義や福島県防災 VR 映像の視聴などを通して、災害時に子どもたちに必要な知識や対応力をどのように教えるかについて、多くのヒントを得ることができました。

【協議】参加者がそれぞれ作成した放射線・防災教育の授業構想の協議

放射線・防災教育に対して高い意識をもった先生方ばかりで、活発に協議が行われました。様々な校種の先生が共に協議できたことも、授業構想の練り上げに有効だったようです。



2 参加者の声(研修後の振り返りから)

- 今まで出前授業に頼っていた放射線教室を、自分でやってみたいと思った。
- 自助のための準備の必要性を痛感した。
- 今の子どもたちにとって原発事故は実感のないものになってきている。だからこそ、1つ1つ丁寧に、何が、どうなり、今につながっているのかを学び、生活に生かせるよう指導していくことが必要なのだと思った。

本研修を通して先生方の放射線・防災教育の指導力が高まり、「東日本大震災・原子力災害の教訓を継承し、福島の今と未来について発信できる子ども」を育成する一助になれば幸いです。

その他の研修【児童生徒が1人1台端末を活用する授業基礎講座】 令和6年12月25日(水)

当センターにてオンラインで開催された内容等について紹介します。講義・演習を通して Google アプリの活用法や機能を体験的に学ぶ機会となりました。来年度も12月の冬休み期間中に開催します。小・中学校、特別支援学校で ICT 活用に苦手意識のある先生方は、ぜひご参加ください!

1 研修概要

- 1 目的 授業における1人1台端末活用例の紹介や体験を通して授業力の向上を図る。
- 2 対象 1人1台端末を活用した基礎的な授業力を高めたい県内小・中・義務教育学校教員、特別支援学校小学部又は中学部担当教員(希望者)
- 3 日程・内容
13:30~13:45 講義 「教科指導における効果的なICT活用のポイント」
13:45~15:00 講義・演習 「授業における活用例の紹介・体験」 ※ 5教科

15:05~15:45 協議 「1人1台端末活用における課題の共有や実践事例紹介」 ※ グループ協議

15:45~16:00 振り返り・諸連絡

2 主な活用例 ※ Google アプリ等を用いた各教科の端末活用紹介(抜粋) ※教師の活用も含む

○国語科

- ・スピーチや話合いの様子を録画・再生して自分の話し方を確認したり助言し合ったりする。【端末のカメラ機能】
- ・成果物作成(レポートや好きな短歌の紹介、鑑賞文などのワークシート)の場面において活用する。【Google ドキュメント 、Google スライド 】

○算数・数学科

- ・フリーソフトを用いて、関数のグラフや平面・空間図形を容易に作成することができる。【GeoGebra(ジオジブラ)】
- ・授業の板書、ワークシートや振り返りシートなどの課題を端末に配付し、情報を共有する。教師が作成したサイトにアクセスして個人で復習等に活用する。【Google クラスルーム 、自作のサイト】

○社会科

- ・単元を貫く課題づくりのために、端末で児童生徒の意見を集約、テキストマイニングを活用してクラスの意見の傾向を共有し、教師と児童生徒で対話しながら課題を作り上げる。【Google フォーム 、テキストマイニング】
- ・家庭学習と連携させたり、興味・関心を高めたりするために、自作のミニ動画を見せる。【Windows フォトアプリ 】

○英語科

- ・スピーチや発音練習において、ヘッドセットを用いて音声入力機能で正しく文字が入力されるか確認する。家庭学習課題として、自宅で練習に取り組むようにすることも可能である。【Google ドキュメント 】
- ・端末を用いてアルファベットの練習ができる言語活動案を生成 AI へのプロンプト(指示文)を工夫することにより生成してもらう。【Google Gemini(ジェミニ) 】

○理科

- ・実験結果を個人端末で Google スプレッドシートに入力する。他の班の結果などが端末上で参照できる。グーグルドキュメントで作成したワークシートに貼られた参考動画や振り返りシートのリンクから、いつでも確認したり、振り返りを入力したりすることができる。【Google ドキュメント 、Google スプレッドシート 】

○校務処理における活用例

- ・職員会議要項を Google ドキュメントで作成することで、職員間で内容を即時共有できる。また、その要項に共同編集が可能な、Google スプレッドシートで作成した個別懇談日程表のリンクを貼ることにより、いつでも他学年・学級の日程を確認し、容易に調整できる。【Google ドキュメント  Google スプレッドシート 】

3 参加者の声(研修後の振り返りから)

- 社会科の単元の導入場面において、動画を視聴させることで、児童生徒の関心・意欲が高められると思う。算数科では、自作のサイトに板書の写真を掲載しておくことで、自主学習時のヒントになり、欠席しても授業内容を知ることができるのがとても良いと思う。
- Google フォームを活用することで、運動会や発表会等、学校行事のスローガンを決定するのが楽になる。
- 端末の使用は手段であり、目的は児童生徒の学力向上や活動の活性化であると感じた。 など

1人1台端末を活用することにより、説明などにかかる時間を減らし、児童生徒の活動時間を確保することができます。また、私たちの姿が児童生徒の主体的・対話的で深い学びにもつながります。端末活用の可能性は無限にありますので、まずは、私たち教師が楽しみながら取り組んでいきましょう。

令和6年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島 の 教育をつくる ～

令和6年11月21日(木)、福島県教育研究発表会を開催しました。

県内各学校の教諭等による優れた教育実践や研究、当センター指導主事や長期研究員による研究成果等の発表を行いました。

当センターでは初めて、集合形式とオンライン形式を組み合わせで発表会を行い、当日は250名以上の参加がありました。参加した皆様から寄せられた御意見や御感想は今後の参考にさせていただきます。

なお、各発表の概要は、当センターWebサイトの福島県教育研究発表会のページに掲載しました。ぜひ御覧ください。



<参加者の声>

- 解決したいと思う学習課題を設定し、子どもから問いを引き出すことを大切に、本当の意味で学び続ける子どもを育てていきたいです。
- 実践発表を拝聴し、子どもたちの言葉を教師がしっかりと見取り、子どもたちの言葉に寄り添って一緒に授業をつくっていくという姿勢が重要だと感じました。

御後援を賜りました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会及び発表校・園、研究協力校の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和7年度福島県教育研究発表会（予定）

令和7年11月20日（木）

令和7年度研修講座受講案内をWebサイトに掲載しました

本誌でも研修講座の紹介をしておりますが、当センターではその他にもたくさんの研修講座を準備しています。これまで、研修講座案内は各学校へ冊子で配付しておりましたが、情報端末の普及に伴い、令和6年度からWebサイトへの掲載のみにしております。教育センターの研修を受講される方は、教育センターWebサイト及び全国教職員研修プラットフォーム Plant を確認してください。

教育センターの出前講座はいかがですか

教育センターは指導主事を学校等に派遣する「出前講座」を実施しています。「授業改善のポイントを学びたい」「ICTを活用した教科指導の研修をしたい」などの校内研修をお考えの方は、教育センターWebサイト「出前講座・カリキュラムセンターのご案内」にアクセスしてみてください。

なお、受付は実施日の3か月前からです。新年度（5月から実施）の受付は4月1日（火）から行います。